

## V 日高振興局

### 1. 重点プロジェクト【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

#### ～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒～

クビアカツヤカミキリは、サクラやモモ、ウメなどのバラ科樹木を内部から食い荒らし枯死させる特定外来生物である。県内では、2019年にかつらぎ町で初めて被害が確認され、2020年には岩出市、橋本市、紀の川市へ発生域が拡大していることから、今後日高地方での被害発生が懸念されている。

11月24日～12月4日、日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：農業水産振興課）は、日高全域のサクラ樹植栽地85か所（計2,906本）において第3回目巡回調査を実施した。

サクラ樹の主幹根元から高さ4mまで1樹ずつ目視し、フラス（虫の排泄物と木くずが混ざったもの）の発生状況を調査した結果、類似のフラスを5点発見し採取した。

なお、その後、うめ研究所でフラスを鑑定した結果、いずれもクビアカツヤカミキリのものではないことが判明した。

今後も、継続的にサクラ樹植栽地やウメ園の巡回調査を行うとともに、生産者や一般住民等への啓発を行うことで、本虫の早期発見、早期防除に努めていく。



クビアカツヤカミキリのフラスの発生状況を調査（みなべ町、日高町）